

# 行歯会だより 第153号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

令和2年5・6月号



## 1 退職しました

前 栃木県立衛視絵福祉大学校長兼歯科技術学部長  
青山 旬

## 2 都道府県世話役のつぶやき ～広島県・福島県～

● 広島県 西部東厚生環境事務所・保健所 主査

谷 尚美

● 福島県 福島県立総合衛生学院 科部長

沼田 匠

## 3 令和2年度第1回行歯会理事懇談会報告

### 1 退職しました

前 栃木県立衛生福祉大学校長兼歯科技術学部長  
青山 旬

新型コロナウイルス感染がまだまだ続く状況です。対策にあたり、同僚が多忙となって、その他の業務を受け持ったりでお忙しい方々も多いと思います。お疲れ様です。

さて、私は3月末をもって退職しました。時々、歯科衛生士養成所に教えに行けばと思っていたのですが、住んでいる東京も緊急事態宣言が出たこともあり、4月は無職となりました。

難病の妻のケア（一部出来ない生活の支援）と、週2回の買い出しの生活を送っています。

広島大学歯学部から、平成3年1月に広島市衛生局中保健所（当時は各区に保健所が設置されていまして）と広島市役所健康管理課兼務の歯科保健等を担当するため転職しました。

2月中旬に中区内で赤痢の集団感染が起こり、中堅の医師を中心に対策チームが結成され、保健師は感染者と家族の聞き取り、その他の職員は検便検体の輸送か情報整理にあたりました。私も情報整理員として情報のワープロ入力担当となりました。最終的に患者60名に及んだ集団感染でした。当時の広島市直営病院の感染症病床は50床でありマスコミに叩かれた事を覚えていま



す。患者の個人の感染資料から最初に感染したのは小学生の兄弟で、行動記録を集めると、その2名から学校で同級生、その家族、その兄弟の幼稚園、保育所と広がったことが分かりました。つまり、感染経路不明だが、一つのクラスターが特定出来たという事です。行動制限等で4月初めには新たな感染者が出なくなり5月の連休明けに終息宣言を出して終結しました。

ただし、最初の兄弟から分離された赤痢菌の抗生物質薬剤耐性が一つだけ陽性と陰性が異なっており、感染ルートが違うのかどうか問題となりました。チーフである医師が兄弟の治療状況を家族とかかった医師に確認したところ、熱と下痢から始まったので、おそらくインフルエンザが疑われ、解熱剤と予防投与の抗生物質が一人には処方されていました。

つまり、その子供の身体の中で抗生物質によるセレクションが起こり耐性菌が生き残ったため薬剤耐性パターンが異なると考えられました。従って、同一感染源と推定されました。子供たちには渡航歴はなく、渡航歴のある人との接触もなかったため、健康保菌者からの感染が強く疑われました。この経験は中心となった医師により盛岡市の公衆衛生学会で報告されました。

その時の経験から、新型コロナウイルス感染対策として問題になっているPCR検査ですが、この種の抗原検査結果は検体採取時点での感染の有無しかわからない事を広める必要があると思います。

その後の行動によって感染しても検査が陰性だった事から活動が活発になる事で、その後に感染し感染源にならない様、行動する事が求められるからです。くれぐれも注意したいものです。

平成6年10月に国立公衆衛生院疫学部に移って、そこに感染症疫学室長というポストがあり、平成8年から問題となった腸管出血性大腸菌による食中毒の感染源の分析に活躍するようになりました。現在、鳥取大学医学部の尾崎米厚教授が当時室長でした。

平成8年7月に起こった堺市の0-157による大規模な食中毒では食材の保管期間が48時間であったことから、保管期間が2週間に延長され、それ以降の帯広市や盛岡市の小学校での感染ルートを解明されました。

残念ながら、省庁再編後の研究施設の再編で、感染症に関しては国立感染症研究所が担当し、感染症情報の集約がされていますが、川崎市に移られた岡部信彦先生の後、情報発信が弱くなっているように感じられ、アメリカ合衆国のCDC (Center for Disease Control and Prevention) までとはいかないけど、国にその機能があって、専門家会議や疫学分析に携わってほしいと感じています。

やっとなんか歯科保健の話になりますが、平成17年度に栃木県に移り、兼務でしたが県庁健康増進課で歯科保健を担当する初めての歯科医師として働きました。栃木県の歯科保健状況が都道府県でみて、良くも悪くもなく、30位くらいだったかと思います。行政では対策費が確保しにくい状況でした。

しばらくして、死因別の年齢調整死亡率の都道府県比較が当時の厚生労働省大臣官房統計情報部から公表され、栃木県の脳血管疾患による死亡率は、男性 45 位、女性 47 位でした。女性の最下位は久々でしたが、今までの対策に奮闘してきた県としてはショックでした。

やはり健康増進課兼務の医師と脳血管疾患が死因の死亡は倒れてそのまま亡くなられたのか、脳血管疾患によって引き起こされた病気によるものかが議論となり、どこかの保健所でその分析をすることが死亡率の減少につながるのではと考えました。

ちなみに、死因は最終的に亡くなった死因（直接死因）ではなく、それを引き起こした原因が考えられる場合にはその原因を死因（原死因）とします。その原死因によって死亡統計が作成されます。これは、深井獲博先生を中心とした歯が少ないと死亡率が高いという宮古島研究の分析に関わったので知っていました。栃木県の県東健康福祉センターの死亡統計の解析で、およそ 1/3 は脳血管疾患の初発で亡くなっており、1/6 は再発によるものでした。しかし、1/3 は肺炎によるものでした。

つまり、脳血管疾患、嚥下障害、誤嚥性肺炎の順で亡くなるのではと考えられました。

健康増進課の医師はその対策を予算計上しましたが、残念ながら予算化は出来なかったのですが、保健福祉部長の一言で、予算の組み換えで対策がスタートしました。高齢者福祉施設や老人病院の職員への研修がその後実施されました。残念ながら、その後の栃木県の脳血管疾患による年齢調整死亡率は大幅な改善とまではいかず、県の順位を 1,2 位ほど上げた程度ですので、反省するところです。

雑多な話になりましたが、新型コロナウイルスのニュースを聞いて、思い出したことなどのお話しです。最後まで読んでくれた方、ありがとうございました。



謝恩会でハンドベルを披露

## 2 都道府県世話役のつぶやき

広島県

西部東厚生環境事務所・保健所 主査

谷 尚美



### ●世話役のつぶやき

全国の行歯会会員の皆様におかれては、日々、新型コロナウイ

ルス感染症への対応お疲れ様です。当所で対応にあたっているのは隣の係で、私自身は今のところ検体搬入に直接関わっていませんが、保健課の課員として裏方で協力しているところです。一日も早い収束を祈るばかりです。さて、広島県は、県内 23 市町のうち、広島市が政令指定都市、呉市と福山市が中核市です。当所は、県型の保健所であり、2 市 1 町を管轄しています。管内人口は、約 213,000 人で、広島県のほぼ中央部に位置しています。

当所では、広島中央地域（竹原市・東広島市・大崎上島町）住民の低栄養や誤嚥性肺炎を予防するため、フレイル予防を含めた栄養・口腔ケアについて包括的な支援やサービス提供体制の構築について、平成 28 年度から検討しています。

今後の取組の拡大や事業継続を推進するための人材発掘や、地域との連携強化を図るための基礎資料として、管内の歯科医療機関等に勤務する歯科医師、歯科衛生士等を対象に、昨年度、「口腔ケア推進に係る連携強化アンケート」を実施しました。アンケート結果の概要は、当所の HP に掲載しています。

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/171/koukuu-rennkeikyouka-annke-to.html>)

また、「在宅栄養・口腔ケア連携推進事業の 4 年間の取組」を令和 2 年 2 月 17 日に開催された「第 17 回広島県地域保健福祉研究発表会」において発表しました。その抄録は県の HP に掲載されています。

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/50/no17kenkyuuhappyoukai.html>)

昨年度から実施している「口腔ケア推進連携強化研修」では、管内の歯科専門職等を対象とし、令和元年度は「地域包括ケアシステムにおける歯科専門職の役割を知る・考えること」を、令和 2 年度は「歯科専門職が地域とつながること」を事業のねらいとして実施しています。開催にあたっては、事前に市町担当者及び関係者に趣旨説明の上、内容に意向を反映するよう努めました。研修内容には、「地域包括ケアシステム人材育成研修会」、「情報交換会」や視察等の一連の研修メニューとして実施しています。

最後に、平成 30 年 7 月豪雨災害の時には、東京都のほか全国から支援のため来所くださいました。メールもいただきましたが、返信もできず、ずいぶん後でメールに気づき今でも大変心苦し

く思っています。この場をお借りし感謝を申し上げます。当時、避難所への災害時公衆衛生チーム（口腔ケアチーム）の派遣要請について、関係団体はスタンバイしていたにもかかわらず、市町・保健所・県庁間の連携が不十分であった（派遣要望があがらなかった）という苦い思いがあります。もし、今後何かあれば、市町からニーズがあげやすいよう、多少おせっかい気味に関わっていきたいと思います。

福島県

福島県立総合衛生学院 科部長 沼田 匠

### ●世話役のつぶやき

皆様こんにちは。前福島県世話役の沼田です。

会員の皆様も新型コロナ対応で大変な思いをされているかと思います。

そのような中ではありますが、私の3度目のつぶやきを綴らせていただきます。はじめは「ネタがないなー」と思っていたところ、今回の定期人事異動で「福島県衛生研究所」から「福島県立総合衛生学院（医療系養成校）」に異動することになりました。そんな訳で今回は、異動ネタ、コロナネタで執筆させていただきます。行政的には参考にならないかもしれませんがどうぞご容赦ください。

異動内示に前後して、隣県栃木県の中山先生より原稿依頼をいただき、その際に、青山先生のご退職に伴い中山先生も養成校に異動となったと伺い、驚きながらも「仲間イター！」と勝手に喜んでおりました（中山先生すみません）。

さて、異動とはなったものの本格的な新学期を迎えるとほぼ同時に新型コロナの影響により当学院でも在宅学習となってしまいました。そのような中、上司より遠隔授業の実施体制構築を、との業務命令が。寝耳に水の遠隔授業実施体制の構築ということで悩んでいたところ、今度は妻が県の新型コロナ対策本部に行くことに。すでに休校・休園措置となっていた子供達の世話も含めどうしたものか悩んでいたところ、タイミングよく子供達が遠隔授業を受けることとなり、「子供達の先生方に遠隔授業のやり方を聞いてみよう！」と、子供達そっちのけで自分が遠隔授業を受け、やり方をご教示いただき、無事、GW明けより遠隔授業を開始することができました。

同時に、息子達の外出自粛生活も、ジジババの協力や遠隔授業により、辛うじて何とか過ごしている(?)ような状況です。とは言え、給食もないため、毎朝の子供達の弁当作りと宿題の確認が本当に大変(なよう)であり、妻とジジババには本当に感謝です。



ようやく遠隔授業が軌道に乗ったとは言え、そのための教材づくり、時間割調整、遠隔授業用の教室の割り当てなど、対面授業に比べて教員側の負担が著しく増大しているような状況であり、隣地実習、臨床実習なども、今後どう調整していくか、課題が山積みです。そのため、緊急事態宣言が解除となっても通常体制に戻るにはまだまだ時間がかかりそうです。

会員の皆様も新型コロナウイルス感染症への対応に忙殺されているかと思いますが、このような状況だからこそ無理せず頑張りましょう。

## ●最近のトピックス

この度、本県の世話役を「郡山市保健所」の古川利枝さんと交代することになりました。古川さんには快く引き受けていただき感謝申し上げます。

また今年度、本県の会員が一名増えることになりました。これまでご支援いただきました皆様に御礼を申し上げますとともに、引き続き御指導下さいますようお願い致します

## 3 令和2年度第1回行歯会理事懇談会報告

日時:令和2年6月5日(金)19時~21時

Zoomによるオンライン会議で開催

出席者:長、高澤、山田、芦田、安藤、金森、岸井、佐々木、田野、田村、中山、林、福田、堀江、柳澤、吉野、渡辺、加藤(記録)(敬称略)

行歯会初のweb会議実現!

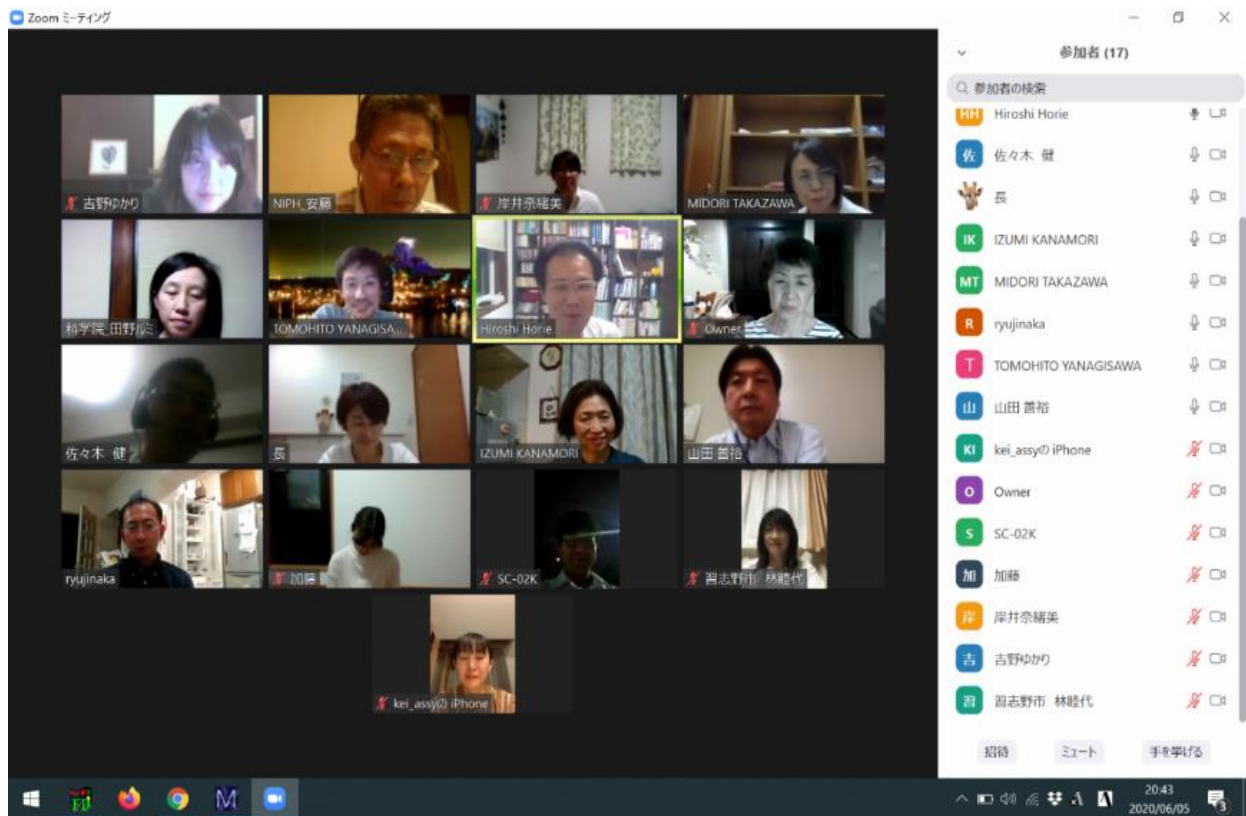
数年前からオンラインで理事同士の打ち合わせができないか検討しておりましたが、各理事の職場で環境整備されていない事から、無理だろうと諦めていました。しかし、今回、新型コロナウイルス感染症の発生により、世の中は大きく変換せざるを得ない状況になりました。もともと理事懇談会は、平日夜に開催していた事から、何も職場の環境に左右される事はなく、理事個人のスマホやパソコンを使えば良いではないか、という事で、初web会議が実現したわけです。

思い起こせば行歯会が発足した2005年、Yahooを利用したメーリングリストの立ち上げは画期的でした。あれから15年、今後、遠方の理事の方々もweb会議であれば参加が可能となり、正式な理事会開催も夢ではなくなった!と新たな時代の幕開けを感じた夜でした。

環境を提供して下さった福田事務局長には感謝申し上げます。

行歯会長 長 優子





## 【報告】

### 1 規約の改定

- ・改定規約をホームページに掲載する。

### 2 名簿管理進捗状況

- ・青森県世話役は、当面、高橋ブロック理事が代行する。
- ・歯科技工士は名簿管理上、現行のまま会員扱いとする。

## 【議題】

### 1 行歯会だより計画について

- ・賛助会員に寄稿依頼する。
- ・厚生労働省の行政歯科衛生士研修参加者に寄稿依頼する。
- ・行歯会だよりの8月以降の編集当番について検討する。

### 2 世話役アンケートについて

- ・コロナ対策の中でのオンライン活用についてアンケート調査してはどうか。

### 3 会員アンケートについて

- ・ 歯科職がどのような COVID19 対策業務を担ったか実態把握してはどうか。

### 4 公衆衛生学会自由集会について

- ・ 今年度は京都府で開催。自由集会を地元が開催しないようであれば、行歯会として歯科衛生士の人材育成について開催する方向で検討する。

### 5 人材育成ガイドラインの活用について

- ・ 公衆衛生学会自由集会での意見交換を検討する。

#### ♪ 編集後記 ♪

勤務先の異動があり、学生教育に関わるようになりました。人材育成は極めて重要と考えています。歯科業界の未来を担う学生に夢と希望を与えることが出来れば望外の喜びです。（N）

以前の編集後記で、外出自粛などにより、今年の春は桜の開花など季節の変化を感じる事がなかった、と書いておりましたが、マスク着用の毎日の中梅雨に突入し、今回ばかりは季節の変化を肌で感じています。

これからはじまる長い夏を、熱中症にも気をつけて乗り切りましょう。（Y）

#### 「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、  
掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛にご連絡ください。